



## 口腔の老化・口腔ケア・摂食嚥下障害を全体像から わかり倒そう！ 大人気の藤本篤士先生の講演を紙上視聴！

Dr. 藤本紙上セミナー

口腔の老化・口腔ケア・摂食嚥下障害のキホン  
リハ・栄養・歯科の三位一体に向けて

藤本篤士 著

B5判/152頁/定価4,950円(本体4,500円+税10%) / 医歯薬出版(2024年6月)

本書は、病院歯科で長年にわたって高齢者を診療してきた著者の豊富な臨床体験に基づいており、学会発表や講演のエッセンスがふんだんに盛り込まれています。

Part 1では「口腔と老化と日本の医療制度」として、「医療」という大きな枠組みのなかで、歯科が全身の健康のために担う役割や機能、療養ステージに応じた歯科治療に関して記載されています。Part 2の「口腔ケアのキホン」では、口腔ケアが全身の健康の維持・向上に有効であることを示すエビデンスや、著者の臨床経験に基づく口腔ケアの捉え方や考え方が述べられています。また、口腔ケアを臨床で実践する際に活用できるノウハウなどについて、他職種にも理解しやすい構成で詳細にまとめられています。

Part 3「摂食嚥下障害のキホン」では、食事摂取に関係する諸器官の構造や摂食嚥下機能について、解剖学的視点と臨床的視点の両面から解説がなされています。最終章のPart 4「摂食嚥下障害症例集」では、著者の専門領域である補綴治療によるアプローチや工夫が惜しみなく紹介されており、他職種でも補綴治療の効果や特殊性を理解できる内容になっています。

また本編に加えて、口腔ケアや摂食嚥下障害の患者さんに携わるうえで一般的に用いられる

用語が、Glossary(用語集)として簡潔に解説されています。さらに、読者の興味を引く多彩なColumnが随所に盛り込まれており、読み進めやすい構成になっています。

著者の藤本先生にはじめてお目にかかったのは、25年以上前。そのときはまだ「口腔ケア」という言葉はありませんでした。当時の私は、老人病院とよばれていた要介護高齢者を対象とする歯科診療室のない病院で、歯科衛生士として1人で勤務していました。本書を開くと、他職種に歯科や歯科衛生士の専門性や高齢者ケアにおける役割を理解してもらおう難しさとともに、多職種連携のなかで役割を担える喜びを感じながら奔走していた20代のころが思い起こされます。当時に、本書のような“バイブル”があればどんなによかったかと思います。

現在、国の政策として、高齢者の自立支援・重症化防止のために「リハビリテーション・栄養・口腔の三位一体」の連携強化が謳われています。特に、食生活支援や口腔ケアの場面で、歯科衛生士の専門性が強く求められる時代になっています。本書はこれらを実践するために、歯科衛生士が備えるべき知識やヒントに溢れているだけでなく、歯科と連携する他職種にもわかりやすい構成でまとめられています。多くの方に読んでいただきたい1冊です。